

「日本原子力研究開発機構被ばく作業員の受け入れ」の状況について

1. 受け入れに至る経緯

平成 29 年 6 月 6 日（火）

- (1) 11:15 頃、日本原子力研究開発機構（JAEA）大洗研究開発センター燃料研究棟内（放射線管理区域）で、汚染が発生（詳細は JAEA のプレス発表を参照）。
- (2) 16:30 頃、JAEA（核燃料サイクル工学研究所副所長）から、QST 明石執行役に対し「大洗センターで内部被ばく事故があり相談したい」との連絡があり、その後両方で情報交換を開始。
- (3) 19:00 に JAEA が記者会見。
- (4) 22:00 頃、明石執行役が、JAEA から「体内汚染が確認された方に、産業医と相談して、DTPA(注 1)の注射をはじめたいので、今後のフォローアップをお願いしたい。」との依頼を受け、QST 本部と放医研で受け入れの準備を開始。

平成 29 年 6 月 7 日（水）

- (5) 5:30 頃、JAEA から（被ばく者の）受け入れ人数は 5 名、午前 10:00 に大洗研究開発センターを出発予定と連絡。
- (6) 12:00 頃、JAEA からの患者さんが到着、緊急被ばく医療施設に入る。

2. QSTでの受け入れ体制、当面の対策

- (1) 放射線医学総合研究所の被ばく医療センターと、病院にて受け入れ体制の準備を進めた。
- (2) 緊急被ばく医療施設などで受け入れ、体表面汚染の確認、被ばく線量評価などを実施。
- (3) DTPAの注射などの治療を行う予定。尿を用いたバイオアッセイ(注2)も継続的に実施する。

3. 現在の状況

- (1) 患者さんを受け入れ後、体表面汚染の計測と除染を実施、完了。
- (2) 除染が終了した患者さんから、順次、医師による問診、肺モニターでの計測などを開始、現在継続中。

4. 今後の見通し

- (1) 今後、肺モニターなどの計測結果をもとに線量評価解析を行うが、バイオアッセイ検査の時系列データも参考にして総合的な評価を行う必要がある。
- (2) 治療するためのデータを取得するには、今後まだ数日を要する。
- (3) 解析結果、評価結果をお伝えすることについては、JAEA と協議する。

## 用語解説

### 注 1

#### DTPA

ジエチレントリアミン 5 酢酸（英語名：Diethylene-triamine-pentaacetic acid）。

体内に取り込まれたプルトニウムの体外排泄を促す効果があるとされる、キレート剤と呼ばれる薬剤。プルトニウムを積極的に排出し、内部被ばくの量を減らす効果が期待される。

### 注 2

#### バイオアッセイ法

個人の被ばく線量モニタリングのため、尿、便など人体からの排泄物など試料を分析することで、体内に摂取された放射能（放射性核種）を評価する方法。